

## 避難所の新型コロナウイルス感染症対策について

### 1. 概要

大規模災害時の避難所では、「3つの密（密閉・密集・密接）」の条件が重なりやすいことから、新型コロナウイルス感染予防対策が必要となります。

市では、開設する避難所の見直しや、密集・密接を避けるための間仕切りの設置や換気などによる衛生環境の確保に努めます。また、体調の優れない方や感染症に罹患した場合に重症化しやすい方を別の避難所に避難していただくなどの対応を行うなど、避難所における感染予防に取り組みます。

#### 【具体的な取り組み】

##### ①開設する避難所の見直し

- ・最初に開く避難所として、浸水被害などのリスクの低い「ダイハツ九州アリーナ」を利用します。

##### ②備蓄品などの購入

(当初予算、4月補正分)

- ・間仕切り 105基
- ・アルミベッド 70基
- ・マスク 90,000枚
- ・消毒液、ペーパータオルほか

(予備費対応分)

- ・サーモグラフィカメラ 50台

予定事業費 23,535千円

### 2. 避難の際に注意してもらいたいこと

- ① 警戒レベル3や4が出たら、危険な場所から避難が必要です（特に、防災マップで自宅の場所に浸水想定や土砂災害危険区域などの着色がされている人は注意）。
- ② 「避難」とは「難」を「避」けることであり、安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。（例：水害時におけるマンション等の上層階に住んでいる方で、災害備蓄品を常備している方 等）
- ③ 避難先として、市が開設する避難所以外に、安全な親戚・知人宅に避難することも選択肢として検討しましょう。



これらを踏まえたうえで、必要に応じた避難行動をお願いします。

（上記の①及び②は、避難所の過密状態の回避のために有効）

### 3. 非常時持出品の見直しの周知

これまでに備えていた非常時持出品に加えて、感染症要望対策として次のものを持参してもらうことを周知します。

- ・マスク ・体温計 ・（ペーパー）タオル、ハンカチ
- ・石鹸、手指消毒液 ・てぶくろ（使い捨て）
- ・ビニール袋



4. 避難者の受け入れ体制

発熱や咳等の症状  
(検温も併せて実施)

サーモグラフィカメラを各避難所に配備し、受付で体温を自動計測する。  
一定以上の熱がある方には、別途体温計で計測してもらう。

自家用車で避難した場合は、避難者の自家用車内で対応するなど、避難所内で待機させないこと(感染症予防のため)

あり

なし

新型コロナウイルス感染症に対応した避難者受付用紙を、別途準備する。

市の保健師による問診(電話にて)

感染症に罹患した場合に重症化しやすい方

- 【保健所(帰国者・接触者相談センター)に相談する目安】
- ・息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある。
  - ・高齢の方、糖尿病、心不全、呼吸器疾患等の基礎疾患がある方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方、妊娠中の方で、発熱や咳などの比較的軽い風邪症状がある。
  - ・上記以外の方で、比較的軽い風邪症状が続いている方。

- 【重症化しやすい者の目安】
- ・要支援・要介護認定を受けている高齢者
  - ・糖尿病、心不全、呼吸器疾患等の基礎疾患がある方や透析を受けている方
  - ・免疫抑制剤や抗がん剤を用いている方
  - ・妊娠をしている方
  - ・その他健康面など特に配慮を要する方

非該当

非該当

かかりつけ医等を受診もしくは北部保健所(22-2210)に相談  
※1

該当

避難所への受け入れ  
※避難所内で発熱等が出現した場合は、左記「あり」からのフローの処置をとる

該当

【体調不良者の受け入れ先(個室スペース)】

- ・本庁管内は、専用の避難所を開設(場所は検討中)
- ・各支所(研修室等) 担当部署:別途協議の上決定  
※その他避難所は、上記受け入れ先へ移動を依頼(市HP等においても周知を実施)

【重症化しやすい者の受け入れ先】

- ・予め了解を得たホテル・旅館(県・市による借り上げ)  
※各ホテル・旅館等の必要なサポートについては、市職員が実施。
- ・福祉避難所

※1 場合によっては、新たに避難所を設ける必要がある。

【問合せ先】

防災危機管理課 門脇、小屋野  
TEL: 0979-22-1111 (内線 271)